



次に、下の図で丸のついた箇所について着目します。実はこの場所には 3 または 4 しか入ることは出来ません。このとき丸の右二つのますで数字が確定できます。

			>	>	
					^
1	<	2	<	3	<
4	<	5	<	6	
6	>	5	>		<
	●	<	5	<	6

この結果、右から 2 番目の列で 6 の入る場所、一番右の列で 5 の入る場所が決定します。

			>	>	
					^
1	<	2	<	3	<
4	<	5	<	6	
6	>	5	>		<
		<	5	<	6
				6	5

次に上部の T 字型のます内で 4 の入る場所を決定します。

仮定その 1。下図で丸が書いてあるますについて考えます。もしこの位置に 4 が入ったとすると、星の位置が 4 になり、三角の記号が入ったますでは 4 が入る場所がなくなるため矛盾します。

		● >	>		
	★				^
1 <	2 <	3 <	4 <	5 <	6
6 >	5 >		<		
	△ <	5 <	6		
	△	△	△	6	5

仮定その 2. 上部の T 字型のます内で 4 が入る場所を考えると、不等号のおかげで 6 の場所も定まります。このとき星のますのいずれかに 4 が入りますが、いずれの場合でも三角の記号が入ったますでは 4 が入る場所がなくなるため矛盾します。

	4	6 >	>		
	6	★			^
1 <	2 <	3 <	4 <	5 <	6
6 >	5 >	★	<		
	△ <	5 <	6		
	△	△	△	6	5

従って上部の T 字型のますで 4 が入る場所は一通りしかありませんでした。この 4 のおかげで通常の数独でも用いられるメソッドにより多くのますで数字が確定できます。

		6 >	5 >	4	
					^
5	6				
1 <	2 <	3 <	4 <	5 <	6
6 >	5 >			<	
		<	5 <	6	
				6	5

次のステップはやや仮定が多いので、数独になれている皆さんならば自明なメソッドですがそうで無い人に向けて念のため図を入れて説明します。

下図で丸がついたますには1または4が入りますが、いずれの場合でも左から3番目の列で2の入る場所が確定します。

次に星のついたますでは1,2,3,4のいずれかが入るのですが、丸が1または4だった関係で少なくとも「1と4が左右に隣り合って入ること」はありえません。2と3についても同様です。このとき2行目、4行目について数字を確認すると、四角のついたますには2または3が入ることがわかり、右から3番目の列を見ると最下段の1が確定できます。

		6 >	5 >	4	
					^
5	6	●	■	★	★
1 <	2 <	3 <	4 <	5 <	6
6 >	5 >	●	■	<★	★
		<	5 <	6	
		2	1	6	5

また下の図の四角と星の不等号の関係を見ると、四角に3は入れないことがわかります。

	<b>1</b>	6 >	5 >	4	^
5	6				
1 <	2 <	3 <	4 <	5 <	6
6 >	5 >		■ <	☆	
		< 5 <	6		
		2	1	6	5

以上のステップでわかった数字を利用して、さらに自明なメソッドを使っていきます。

<b>3</b>	<b>1</b>	6 >	5 >	4	<b>2</b> ^
5	6	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>4</b>
1 <	2 <	3 <	4 <	5 <	6
6 >	5 >	<b>4</b>	<b>2</b> <	<b>3</b>	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>4</b> <	5 <	6	<b>1</b>	<b>3</b>
<b>4</b>	<b>3</b>	2	1	6	5

以上となります。

ひでよし